

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0270

(注)本稿は 2013 年 7 月 2 日から 7 日まで 4 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2013.7.7

前田 高行

絶対君主制国家こそ平和！皮肉な MENA(中東・北アフリカ)諸国の世界平和指数(2013年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その12)

目次	頁
1. 「The Global Peace Index」について	2
2. MENA 諸国の2013年「世界平和指数」	3
3. 2012年と2013年の比較	3
4. 2008年～2013年の世界順位の推移	4

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら 19 国・1 機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第12回のランキングは、NGO グループ Vision of Humanity が The Economist Intelligence Unit (EIU、英国の経済誌エコノミストの一部門)のデータをもとに取りまとめた「The Global Peace Index」から MENA 諸国をとりあげて比較しました。

* Vision of Humanity のホームページ: <http://www.visionofhumanity.org/>

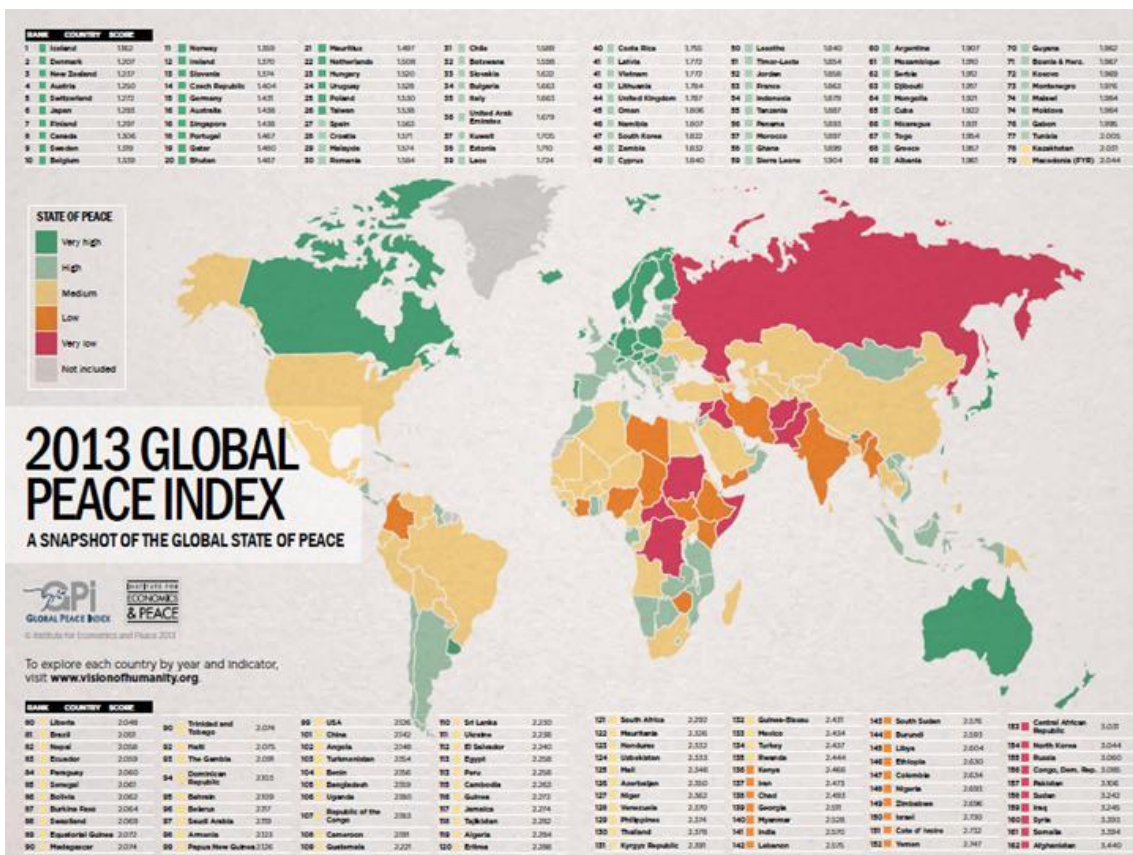
1. 「The Global Peace Index」について

Global Peace Index は、各国の平和の程度およびそれを維持するための機能を指数化し、ランク付けしたものである。2007年に実施された第1回調査ではその対象は121カ国であったが、その後毎年着実に増え、今回の2013年版では162カ国を対象に調査が行われている。因みに MENA 諸国についてはパレスチナ自治政府を除く19カ国全てが評価付けられている。

平和指数は EIU 社の国別調査員と外部ネットワークの協力を得て作成されている。指数は小型破壊兵器(銃、小型爆発物など)の入手の容易さ、国防費、汚職、人権に対する尊重の度合いなど24項目をベースにして作成されたものである。

「世界平和指数」の査定結果には以下のような特徴が見られる。

- ・ 平和の度合いは収入、教育制度、地域一体化のレベル等の指標に関連している。
- ・ 平和な国の多くは政府の透明性が高く、汚職が少ない。
- ・ 小さいが安定した国は平和のランクが高い。



(GPI Map: Vision of Humanity ホームページより)

(群を抜いて平和な国、カタール！)

2. MENA 諸国の2013年「世界平和指数」

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/12-T01.pdf 参照)

MENA19カ国の中で最も平和度が高いのはカタールであり、世界158カ国のなかでも総合19位に位置している。これはポルトガルに次いで高く、オランダ、スペイン、イタリアよりも高いランクである。因みに世界で最も平和度が高いとされる国はアイスランドであり、日本はデンマーク、ニュージーランド、オーストリア、スイスに次ぎ非ヨーロッパ諸国では最も高い世界第6位である。

MENA諸国でカタールに続いて平和指数が高いのはUAE(世界ランク36位)及びクウェイト(同37位)でありカタールとは大きく離れている。カタールは MENA の中でも傑出して高い評価を得ていることがわかる。MENA4位以下10位まではオマーン(世界45位)、ヨルダン(同52位)、モロッコ(同57位)、チュニジア(同77位)、バハレーン(同95位)、サウジアラビア(同97位)、エジプト(同113位)と続いている。

絶対君主制国家である GCC6カ国は全て MENA 上位10カ国に入っており、特にカタール、UAE、クウェイト及びオマーンは MENA1位～4位を独占している。そして GCC 上位4カ国に続くヨルダン及びモロッコも王制国家である。世界平和指数ランクの調査国の数は162カ国であり、これらの上位6カ国の順位は世界平均(81位)を上回っている。このようにみるとMENAの君主制国家はMENA域内の他の共和制或いは民主制国家に比べ平和の度合いが高いと同時に、世界的に見ても平和な国家であることが解る。

11位以下の国とその順位は以下の通りである。

アルジェリア(119位)、トルコ(134位)、イラン(137位)、レバノン(142位)、リビア(145位)、イスラエル(150位)、イエメン(152位)、イラク(159位)、シリア(160位)。

MENA19カ国の平均順位は101位で世界平均をかなり下回る水準である。カタールのような一部の国を除けば MENA は平和度の低い国が多いのが特色である。中でもイスラエルは経済、社会に関する世界ランクでは常に上位を占め、MENA 諸国の中でも1, 2位を争っている¹が、平和度の評価が極めて低いことは特徴的である。

(立ち直るバハレーン、ますます泥沼のシリア)

3. 2012年と2013年の比較

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/12-T03.pdf 参照)

MENA の世界平均順位は2012年102位、2013年101位と殆ど変わっていない。国別で見るとMENA19カ国のうち順位を上げた国は8カ国、下がった国10カ国、変わらなかった国1カ国であり、世界順位が落ちた国のほうが少し多い。

順位を大きく上げたのはバハレーンであり、昨年の118位から今年は95位へと一挙に23ランクアップしている。次項で詳細に触れるが、実は同国は2010年までは世界順位が70位前後であっ

たが、2011年 MENA 全域に吹き荒れた「アラブの春」により国内の治安が大幅に悪化、それに伴い平和指数の世界順位が急落したという経緯がある。2年が経過して漸く落ち着きを取り戻しつつあることが平和の評価の見直しにつながっている。但し同国では現在も街頭テロ事件が続出しており「アラブの春」以前の状態に回復しているとは言えない。

オマーンも前年の59位から45位に急上昇しているが、バハレーンと同様、「アラブの春」によって落ち込んだ順位が戻りつつある状況である。その他クウェイト(48位→37位)、ヨルダン(62位→52位)、UAE(46位→36位)各国も順位がアップしている。これらの国に共通しているのはいずれも絶対君主制国家ということである。「アラブの春」当時いずれの国も国内が揺れたが、その影響を最小限にとどめ秩序を回復したことが平和指数ランクの上昇(回復)につながっている。

一方シリアは前年の147位から今回は160位に転落している。今回ランクの対象国は162カ国であるから、シリアは最下位とも言える順位である。同国は内戦状態にあり多数の死者が出るなど混乱を極めており、平和の兆しが見えない。その他イエメン(143位→152位)、イラン(128位→137位)なども大きくランクを下けているが、このうちイエメンは「アラブの春」で独裁政権は倒れたがその後イスラム過激派組織「アラビア半島のアルカイダ」の動きが終息せず不安定な状況が続いている。

なお調査対象国が昨年の158カ国から4カ国増えているため、トルコ(130位→134位)、イラク(155位→159位)など下落が小幅にとどまっている国は実質的に前年度の横ばいと見ることができる。

(「アラブの春」で多くの国の順位が急落！)

4. 2008年～2013年の世界順位の推移

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/12-G01.pdf 参照)

ここでは MENA の8か国(カタール、チュニジア、バハレーン、エジプト、トルコ、イラン、リビア、シリア)とMENA19カ国の平均並びに日本について2008年から2012年までの順位の変動を見てみよう。

8カ国の2008年の世界順位はそれぞれ、カタール33位、チュニジア47位、リビア61位、エジプト69位、バハレーン74位、シリア75位、イラン105位、トルコ115位であり、カタール及びチュニジアが世界(140か国)の上位グループに入り、またリビア、エジプト、バハレーン、シリアは中位グループ、そしてイランとトルコが世界の低位グループであった。

このうちカタールは世界33位から翌年には一気に16位に上昇、その後も15位('10年)→12位('11年)→12位('12年)と着実に順位をあげてきた。2013年は少し下がり世界19位であったが安定して世界のトップクラスを維持している。

これに対し2008年から2011年まで世界40位前後であったチュニジアは2012年には一気に7

2位に転落、2013年もさらに77位に落ち世界の中間グループに転落している。同国は2011年いわゆる「ジャスミン革命」により長期独裁政権が倒れ、その後の総選挙の結果イスラム政党が国会の過半数を握った。この間、民主化へのプロセスは比較的平穩に移行したが、国内ではイスラム勢力と西欧型民主主義を求める改革派との摩擦が高まっており、この点が平和指数の悪化とみなされランクが急落したまま浮上のきっかけがつかめないようである。

チュニジア以上に激しくランクが急落したのはリビアである。同国の場合2008年から2010年までの3年間は61位→46位→56位と世界平均を上回るランクを続けていたが、2011年には世界153カ国中の143位に急落し、その後も147位(2012年)、145位(2013年)と最下位グループに低迷している。

またシリアも2008年には世界のほぼ中間の75位にいたが、2013年には全世界で下から3番目の160位に転落している。特に同国の場合は6年間にわたり75位→92位→115位→116位→147位→160位と毎年順位が下がっている。現在激しい内戦状態にあり、とても平和とは言えない厳しい状況下にある。

元来 MENA 諸国は紛争が多発しており世界平和指数の低い国が多い。このため MENA 全体の平均世界順位も低く、2008年は世界140カ国中82位であった。その後も平均順位は下がる一方であり、2012年及び2013年は100位以下に落ち込んでいる。地域の大国であるエジプト、トルコ及びイランの2008年と2013年の順位を比較すると、エジプトは69位→113位、トルコ115位→134位、イラン105位→137位である。

「アラブの春」の影響を受けて MENA の大半の国は2011年に世界ランクが大幅に下落したまま改善の兆しが見えない。そのような中で唯一順位をあげているのがバハレーンであり2011年の123位から118位(2012年)→95位(2013年)へアップしている。しかしそれでもなお世界70位前後であった「アラブの春」以前の水準には達していない。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-Mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ 例えば UNCTAD 「人間開発指数」、WEF 「男女格差」は MENA1 位、世銀 「ビジネス環境」は MENA3 位等。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0209MenaRank11.pdf>

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0226MenaRank8.pdf>

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0205MenaRank13.pdf>